

スタジオジブリ作品  
STUDIO GHIBLI

トンネルのむこうは、  
不思議の町でした。

柗 瑠美  
入野自由  
夏木マリ  
内藤剛志  
沢口靖子  
菅原文太

宮崎 駿 監督作品

# 千と千尋の神隠し

製作総指揮 徳間康快 ● 原作/脚本 宮崎 駿 ● 音楽 久石 譲 ● 作画監督 安藤雅司 ● 美術監督 武重洋二 ● プロデューサー 鈴木敏夫 ● 制作 スタジオジブリ  
徳間書店・スタジオジブリ・日本テレビ・電通・ティズニー・東北新社・三菱商事 提携作品 特別協賛 ネスレ ジャングルグループ 配給 東宝

© 2001 二萬一・TGNDTM 200309.215

# 「もののけ」から4年——宮崎駿の清冽な魂が、ひとりの少女の孤独な世界をゆさぶる!

## 「不思議の町」の千尋 「生きる力」を取り戻すこと 宮崎駿が「現代日本」を描く

宮崎駿監督の待望の新作「千と千尋の神隠し」は、現代日本を生きる10才の少女・千尋が主人公です。千尋は裕福な家庭で大切に育てられたひとりっ子。無愛想でわがまま、ちょっとだるそうな典型的な現代の子供です。両親と一緒に郊外へ引っ越す途中、千尋の一家は「不思議の町」に迷い込みます。そこは人間の世界の脇にありながら、この日本に棲むいろいろな神様やお化けが、疲れと傷を癒しに通う異世界の湯屋でした。湯屋は湯婆婆という強欲な魔女が支配しており、その世界では、人間はそのままでは消えるか動物になるしかありません。両親は「不思議の町」の掟を破ったために豚にされてしまいます。たったひとり残された千尋は茫然とします。ひとりで生きていかなくはなりません。おまけに湯婆婆に「名前」を奪われてしまいます。自分が自分でなくなる不安に、千尋は恐怖感を覚えます。「千（セン）」という名に変えられて、働くこととなります。千尋は懸命に働きます。こんなことは生まれてから10年間で、もちろん初めてのこと。怪しい神様やお化けに交わり、謎の少年・ハクや河の神と出会い、様々な経験とふれあいを重ねて働いているうちに、彼女の中に眠っていた「生きる力」が次第に目覚めてゆきます。何重にも守られて育つ現代の子どもたちが、突然ひとりぼっちになったら?——その答えは、千尋の冒険の中に隠されています。はたして千尋は元の世界に帰れるのでしょうか。

これまでの宮崎作品の主人公は、天真爛漫、明るく前向き、そして優れた能力を持っていました。千尋は正反対です。何の能力もないばかりか、受動的で、どうしようもない状況に陥って初めて、誰にも備わっているはずの力を取り戻していくのです。この宮崎版「不思議の国のアリス」ともいうべき物語で、千尋は自分探しをした訳でも、成長した訳でもありません。ただ、自らに湧き上がった自分自身の「生きる力」に気付くのです。

21世紀を迎えたというのに、日本中まわりを見ると、みんなどこか浮かない顔ばかり。景気は長期的に低迷している、国のシステムも旧態依然、国民の政治不信……。子供の世界に目を転じてみても、学級崩壊、いじめ、キレる子供、引きこもり、少年犯罪……。これも良くないキーワードばかりで、日本全体、どれも前世紀から積み残した課題だらけといった感じです。私たち日本人は、「失われた10年」と名付けられたバブル経済の後始末に追われた世紀末の10年間で、未来への明確なビジョンを描けぬまま、新しい100年に足を踏み入れてしまったようです。

自信をなくした私たち日本人がもう一度自らの「生きる力」を取り戻すこと——これが複雑な様相を呈する未来に立ち向かう、誰にでも出来るひとつの方法なのだ。そうこの作品は語ってくれます。

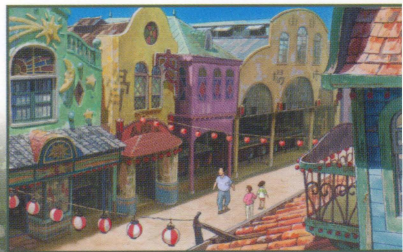
「もののけ姫」は宮崎駿の到達点ではない。新たな出発点だ。——こう分析したのは、長年の盟友・高畑勲監督でした。「もののけ姫」は宮崎監督がそれまでの作品世界をあえて捨てて、自らのテーマに真っ向から挑んだ作品、つまりは新たな出発点だった、というのです。

毎年多くのハリウッド映画が公開され大ヒットしています。ハラハラドキドキ、巧みな伏線と多彩な登場人物、そして手に汗を流すクライマックス……しかしいつも同じパターンで、面白けれど、通り一遍のメッセージしかないのでは、と私たちは気付き始めてもいます。

「もののけ姫」をはじめスタジオジブリの諸作品が評価され、圧倒的多数の観客の支持を集めてきたのは、もちろんエンターテインメントとしての面白さにあることは間違いないかもしれませんが、それだけではなく、それぞれの作品の持つ時代性、メッセージ性がそこに加味されて、ハリウッド映画を超える作品群が出来あがってきたのです。あれから4年——現代の熱血漢・宮崎駿は初めて今の日本を舞台にした作品に挑みました。そのテーマはさらに深化し、映像世界は新たな進化をとげ、その無限の想像力が「千と千尋の神隠し」という比類なきエンターテインメント大作を生み出したのです。

# 千と千尋の神隠し

トンネルのむこうは不思議の町だった。ありえない場所があった。ありえないことが起こった。10歳の少女千尋の迷い込んだのは人間が入ってはいけない世界。驚きと不思議の町で千尋が知るの大きな無力感と……小さな希望。名前を奪われて、千尋は「千」という名で働くことになる。眠っていた千尋の「生きる力」が、しだいに呼び醒まされてゆく。



7月 全国東宝洋画系ロードショー

特別鑑賞券絶賛発売中! (一般¥1,300 小人¥800 一般ペア¥2,400)

東西横木町 109シネマス木場  
TEL03(5683)0109  
http://109cinemas.com

横浜山下町 109シネマス港北  
TEL045(948)5151  
http://109cinemas.com